

電気通信大学 平成19年度シラバス

授業科目名	人間コミュニケーション学実験		
英文授業科目名	Engineering Seminar for Human Communication		
開講年度	2007年度	開講年次	3年次
開講学期	通年	開講コース・課程	夜間主コース
授業の方法		単位数	4
科目区分	専門科目-学科専門科目-必修科目		
開講学科・専攻	人間コミュニケーション学科		
担当教官名	中嶋 信生		
居室	西6-609		

公開E-Mail	授業関連Webページ

<p>【主題および達成目標】</p> <p>実験は、原則として、1～2年次でなされた人間コミュニケーション学科の学科目の講義内容を踏まえて行う。人間コミュニケーション学科として必要最小限の実験内容を準備している。実験の目的は抽象的な講義内容を具体化し、講義での学習内容の一層の理解を助けると共に、講義で学習できなかった事柄を補完し、体感的に習う機会も兼ねている。実験内容は情報処理、合意形成、メディア、電気基礎、信号と画像の処理、環境である。実験を通して、種々の仕事を行うに当たっての段取、手法、データの収集法、解析と分析法、報告書の書きかたを学ぶことも目的のひとつである</p>

<p>【前もって履修しておくべき科目】</p> <p>情報処理、メディア、数学、物理（実験を含む）、化学（実験を含む）、電気関係科目。特に、物理と化学関係の実験を必ず履修し、実験方法、結果の取扱い、考察を含めたレポートの書き方を修得したものととして実験を開始するので留意すること。</p>

<p>【前もって履修しておくことが望ましい科目】</p>

<p>【教科書等】</p> <p>使用しない。予め、実験指導書を配布する。レポートと感想文の違いを理解するために、レポートの書き方について本を読んでおくこと。</p>
--

電気通信大学 平成19年度シラバス

【授業内容とその進め方】

5学期（4テーマで行う）

実験ガイダンス	1日間（前期の最初の実験時間に実施）
合意形成の展開と収束	3日間
情報処理	3日間
メディア分析実験	3日間
電気基礎	3日間

6学期（3テーマで行う）

メディア制作実験	4日間
信号と画像の処理	4日間
環境計測実験	4日間

学生名と実験項目の対応表等は実験ガイダンス時に配付し、説明する。欠席しないこと。

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

成績判定は5学期と6学期の実験を通して行なう。成績評価の内容は、一日（授業 時間で2駒に相当）の実験について

平常点（遅刻、早退、実験態度等）として4点

レポート点として4点

レポート提出の早遅として2点の計10点とする

実験の総点数は10点掛ける実験日数とする。全てのレポートを提出し、総点数の6割以上を得点していれば単位が得られる。総点数が6割以上であっても、レポート未提出分があれば単位を保留し、翌年度に未提出分の実験を行ないレポートを提出する。全てのレポートを提出していても総点数が6割未満の場合は翌年度に全ての実験を行ない再度レポートを提出することになる。なお、単位取得者の中で、不可、可、良、優、秀の判定基準は

不可は総点数で60%未満

可は 60%以上70%未満

良は 70%以上80%未満

優は 80%以上90%未満

秀は 90%以上

とする。

【オフィスアワー：授業相談】

実験指導員により異なるので、予め確認して相談すること。

電気通信大学 平成19年度シラバス

【学生へのメッセージ】

人間コミュニケーション学実験は幅広い分野を網羅しているが、1-2年次の授業と実験を真面目に行なうことが肝心である。

【その他】

担当者多数で上の欄に記入できないので、ここに記します。

前期：中嶋、梶本、永井、坂本、吉浦、高玉、福田、青木（技術部）

後期：梶本、永井、児玉、高橋、田中、チュウ、金子（技術部）